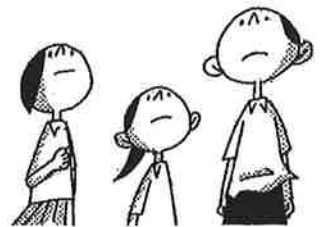




僕は、阪神・淡路大震災のことを聞いて、  
まず、6000人以上の死者がいるというこ  
とに、バカ、傷りました。自分が被災  
者で、家族をもたしていたかもしれないと  
考えるとすごくこわいです。自分は、運よくおそ  
く、生まれたけど、27年前に大切な人を亡し  
て、今も、思い続けてる人がいると思うと、  
自分だったら、たえきれません。日本の人口は、  
1億人以上いるから、たった6000人と思う人も  
いるかもしれないけど、その人が被災者  
になったら、思うと思います6000人も、亡な  
たんだと、たとえば、自分の友達が、1人亡くなっ  
たらその6000倍の人数という大きい地震だ  
と思いました。あと、南海トラフは、いつ  
か、経験すると思うから、その時までには、  
ひな人場所を決めたり、食料をたくわえ  
ないと、と思いました。津波や、火事お  
こす災害だから、地震だけが、  
人の命をうばったとは、かぎら  
ないと分かった。





震災講演会を聞いて、あらためて

地震の恐ろしさについて分かりました。

新聞記者の方々は災害が起きても、

写真をとったり、記事を書き続けたいといけな

いので、とても大変だと思いました。また、阪神・

淡路大震災での死者数を聞いて、あまりにも

多かったのでびっくりしました。神戸でも、震度7も

記録したのにも関わらず、神戸新聞の方々は

本社がボロボロになっているのに会社へ戻って

地域の人のために記事を書いて、京都新聞社

まで舟さつりに行っていたのですごいと思いま

した。阪神・淡路大震災は縦にも横にも

ゆれて、ほとんどの建物がくずれたのに、今は、

地震があったとは思えないほど、きれいな街に

なっているけど、21年前にとっても大変な地震が

起きて、亡くなった人や今も困っている人もいる

と思うので、そのことを忘れずに毎日あたり前に

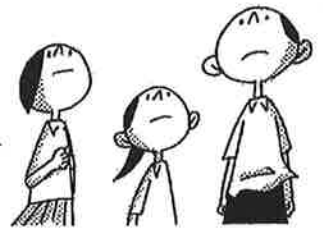
できていることは恵まれていると考

えたい

と思います。そして、これから、地

震は起こってしまうけど、被害が最

少限であってほしいと思いました。

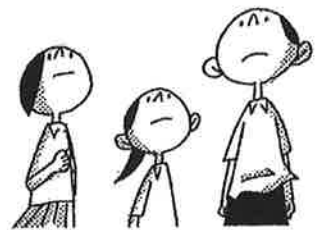




今日、三好さんの講演会を聞いて、震災について改めて考えることは大切だと分かりました。

その当時のことは実際体験はしてはいないけれど、映像や話をしていただけですごく怖い思いをされたんだなと思いました。地震はいつ起こるかも分からないし、どのくらいの大きさの地震がくるかどうかも分かりません。1人1人が自分の命を守れるように普段から避難場所の確認をしたり、ハザードマップを見たりしてイメージトレーニングしておくべきだと思います。そして、大きな震災があった日(1.19や3.11など)に家族で話しあったりするのも良いと思います。

このように地震が起こった時にどうすれば良いのかや阪神、淡路大震災の様子などを詳しく教わりました。私たちにもできることがあると思うので、もし地震が起こったり役に立てるようになりたいです。





今日の震災講演会を聞いてあかたことは、明石市では亡くなった人が11人、~~震災で~~震災で亡くなったことがあかた。神戸新聞が発行できなくなり

そうになつたのは、米騒動、神戸空襲、阪神・淡路大震災の3度の危機があかたことがわかりました。

震災でJRが特に被害の大をうけた六甲道駅はホームと上屋がこわれたことがあかた。

神戸市長田区の住戸蔵氷庫後では、近くの菅原市場などで、火災が起つたこともあかた。

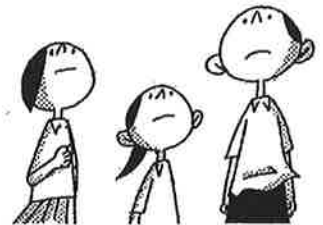
新長田駅北西寄りには、震災いながら、一夜明けでも煙を上げていたこともあかた。

西宮、仁川は、震災直後から斜面が崩れた。

阪急伊丹駅は、ビルが完全に崩壊し、1階の交番の警備室が犠牲になってしまった。

やはり震災、災害などは、これいかにと思いました。

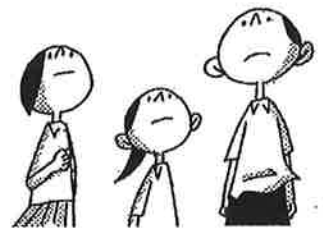
私たちも、空襲や地震が起きたときに、~~避難~~避難値かたのルートや非常食の準備をしかつしないといふと思いました。





阪神

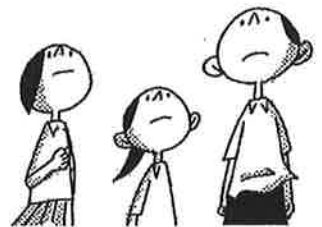
私は、震災講演会を聞いて様々なことを知ることができました。例えば、淡路大震災では初めて震度7が観測されたことや阪神・淡路大震災が起こったことにより、約6000人もの方が亡くなってしまったりしたことです。また、地震が起きて、何かの下敷きになってしまったりするのではなく、地震で生き残ることができても、地震だけがもとってしまった所が悪化して亡なったり、避難所で、なんらかの病気に感染して亡なったりなど、震災関連死も多くあることが衝撃でした。また、日本では地震に限らず豪雨も私たちの生活に大きく影響をあたえていることを改めて感じました。そして、これらの自然災害はいつくるかが本当に分からないので、どんな時でも防災グッズや食料や水を備えておくことがとても大切だと思いました。





私はもっと危機感を持たないといけない  
なと思いました。私達はいつ何が起きるか  
分からない毎日を送っていて、特に何も思わ  
ず、ただなんとなく過ごしているだけじゃ『もったいない』  
と思ったからです。阪神・淡路大震災では、6434  
人の人が亡くなり、その家族の人はもっと苦しんでいる  
と思うのに、今まで大震災の事をずっと伝えてくれた  
からです。大変な思いをしてまで、後世に伝えたかったのは  
もう一度同じ悲しみや苦しみをくり返さないようにするた  
めだからと思うし、より多くの人を救うためだとも思  
いました。1人1人が意識して、危機感をもって行動する  
ことが大切だと思いました。

何かが起こってからじゃ遅いから、今まで伝えてくれた  
人の思いが『もったいない』から私たちは常に考えて  
動くようになっていかなければいけないなと思いました。







約2時間もの間、講演会を聞いて下り、

ありがとうございました。1月17日の「阪神・淡路  
大震災」について、テレビでは知りることができなかつた  
であろうことが教わりました。

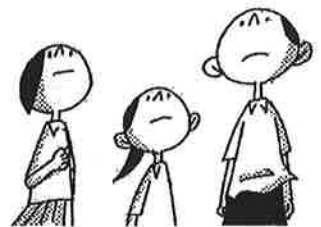
始めのあたりで「神戸新聞の7日間」というDVDを見させて  
もらって「地震発生まで～時間」までには書かれてある部分があり、  
その時は皆が寝ていたり新聞の配達をしていたりしてごく普通の  
生活から午前5時46分になったとたん、地震響きが始まり「起るとほぼ」  
同時に大きく揺れ始め家具の下げきになってしまっていて、「もしこれが  
自分だったらどうなっていたらどうだろう」と考えました。相棒から物が自分の上や  
家族に当たり、タンスが倒れ、逃げ遅れれば死ぬかもしれないと感じま  
した。家具を固定していても震度7にもなるとほとんど「無意味なものか  
ないか。なに、災害について、自分がどうなっていたらどうだろうと  
考えることが  
できようになりました。

実際の写真を見て、センタ-街の神戸新聞本社、高速道路が  
破壊されたことにより、ライクラインはもちろん停止したし、6434人もの  
止くなった方々がいらしたと改めて聞いて、止くなった時、本人はという  
風に思っていたら、しつたのかなと思います。ーしゃんだった

かもしれないし、辛かったな...が苦しい...と心で思っていたら、しつた  
かもしれないと思うと心が痛くなります。自分は防災の

知識が少しあるので「～をして災害に備えておこう」

なんて思ったことはありませんでした。でも、この2時間の講演会で、  
「救える命を、自分の手で救いたい」と思えるようにまで成長することが  
できました。今日はありがとうございました。

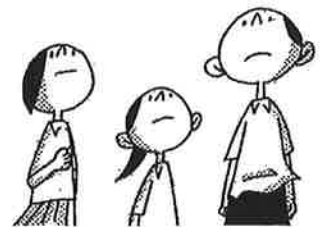




僕たちは生まれてから地震にあった回数だけ  
圧倒的に少ないけど。今日の講演会で  
今まで知らなかったような自然災害の数々を  
知ることができました。今日学んだことの1つは、平成は自  
然災害の多い年号であったこと。大きな地震や、台風、  
記録的な大雨、大雪など。また、自然災害だけでなく、  
サリニ事件のような悲しい事件もおこりました。そういったとき、  
自分たちはどのように動くのか、考えるのか、知る機会  
をいただきました。その中で、神戸新聞社のみなさんは、各々  
それぞれで大変ななか、パニック状態の人々に、より新しく、  
正確な新聞をつくっていただいたそうです。そのおかげ、影響  
を最小減にできたのかもしれないですね。また、見ている人に  
安心安全な情報をとどけてくれていることに、すごく尊敬し  
ました。

この40年の中で、南海トラフ大地震が九十パーセントで  
くると予想されています。今日聞いたことを、しっかり忘れず、  
各自で備えをしたり、家族で話し合ったりして、とにかく  
生きのびることだけを考えて、行動したいです。

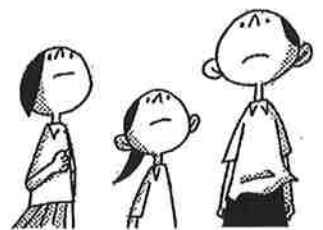
僕は、1.17を忘れません。





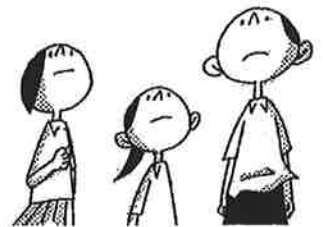


私は、震災講演会を聞いて、災害のこわさと自分や周りの人の命を守るために私たちができることについて深く考えることができました。その中でも、27年前に起こった阪神・淡路大震災は写真で見ましたが、たくさんの人が亡くなり、建物がこわれたりすごい被害があったんだと感じました。最近、防災の授業があり、自分でも災害が起こったときの備えや行動について考えることが増えてけど、講演会で聞いたように、過去の災害からいろんな知識を学ぶことが大切だということが分かりました。そして、震災が起こった大変な状況の中でも、神戸新聞は出し続けていて、くわしい情報を伝えてくれていてすごいと思いました。家でも神戸新聞があるので、ひまなときは読んでみようと思います。震災講演会を通して、いろんなことを学ぶことができるので、家でも災害が起こったときのためにできる備えをして、自分の命を守る行動ができるようにしたいです。



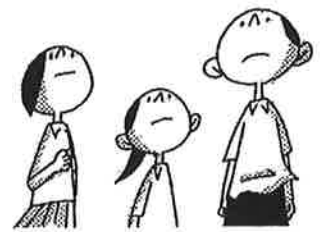


27年前から語り継がれて、阪神淡路大震災にとても長い歴史があると分かりました。建物や道路がくずれ落ちたり、土石災害や火事など、とても大きい被害もあると分かりました。さらに、地震が起こったあとも、大きな被害が出ていると知りました。こんな危険な状況の中だけでも、記事を出そうとした神戸新聞社の方たちがすごいなと思いました。震度7という大きな地震の中かで、仲の良い京都新聞社に記事を書いてもらったり、あたたかいエピソードもあたと知りました。神戸新聞が新聞を発行できなくなりそうになった3度の危機のうちの1つになるほど、阪神淡路大震災は大きかったと分かりました。自分の命を守るために、災害について学んで、周りの命もできるなら助けていきたいと思ひます。「備え」にゴールはないという言葉で、さらに備えを増やしていきたいです。





大きな災害にあって、生きのびた人たちも、三好さんがあのときもしも階にいたら...のように、亡くなっていたかもしれないと知り、改めて、こわいなあと思いました。阪神・淡路大震災で、明石の11人が亡くなったと知りました。全体の死者、6343人の中でいうと、少ないように感じてしまいましたが、1人1人で考えてみると、とても悲しいことだなと思い、「忘」れてはいけないなと思いました。アメリカの新聞、ニューヨークタイムズに掲載された死者の名前など、死を身近に考えさせてくれると思います。でも、10万人ほどの死者がいたのに千人くらいの人しかのらなかつたのは、少しかわいそうだなと思います。日本でも、大変だと思うけど、死者〇人、というように人数だけで伝えるのではなく、その1人の命の重みを感じさせられる記事ができたらなと思います。また、大震災の直後でも、記者の人たちは集まって新聞をとどけてくれたことに、感謝したいです。それに、京都の新聞社や毎日新聞など、ライバルのようなものなのに、助け合うことができるのは、すごいと思いました。つまり、そこまでしてまで神戸新聞の人たちは情報を伝える、という責任感が強いのだなと感じました。私の家族は、災害への備えがあまりできていないので、しっかり話し合っ、準備しておこうと思います。

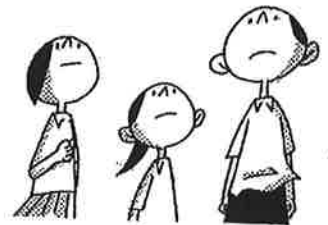




震災講演会を聞いて私は、途中からしか居ながらには  
と、淡路市の南あわじ下の津波は8.1mとい、て大きな  
津波下し、と大き、所では、高知県の黒白町下津波はな

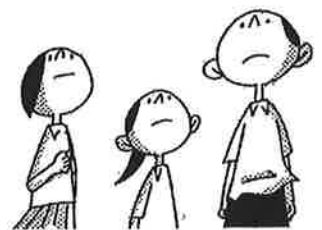
んと34mというすごく大きい津波下聞、下るだけで怖くはりました。  
阪神淡路大震災から今日下、27年経、て、この地震下たくさんの  
人や友達、家族や大切な人が亡くな、てしま、てすごく悲しい事、とい、  
て亡くな、て人は忘れ、てはし、くなく、と思、い、から、忌、とい、てテーマ下  
記事を書、いて、つ、いて、して、大切なお話なの下、しかし頭に残、て  
お、いて、下、す。

下、た、ビ、ュー、のお話を聞、いて、下、高知の黒白町、自分の首元を守るため  
に、兵庫縣の大学に、きて、高知下教え、て、い、する、と、言、て、下、私、も、見、習、  
守、り、に、い、助、け、て、い、自分も思、える、よう、な、人、に、な、れ、た、ら、い、い、な  
と思、い、ま、し、て、今日、の、この、学、習、を、頭、に、残、し、し、本、当、に、大、き、な、地、震、が  
来、た、ら、自分、や、家、族、や、友、達、を、守、て、お、け、れ、る、方、に、な、て、お、い、て、い、  
な、と、改、め、感、じ、て、下、す、私、も、頑、張、り、て、い、下、す。



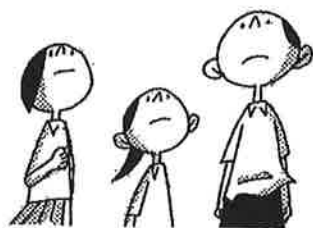


今回は震災講演会でいろいろお話を聞きました。阪神  
淡路大震災が1月17日午前5時46分におき  
て12 自分も今まで正体はあまり知ら  
なくてこの時期でおきたことは、たいていものは  
いろいろ物が落ちてきたり、はれたり、まじがら  
が落ちていたりしていろいろ人がけがをしたりか  
えらぬ人がおこしてしまっていてできるだけこうい  
うことをへらするために、ふだんから自分達ででき  
る準備などをしておいて、ここから、物をこぼした  
りおれやすけい物の場所を、移動させたりして  
できるだけ震災や災害がおきたときなどにけがを  
せず、にげたりおそれずに行動したりいろいろな  
しかたが考えたりするからこういふの（お話を）して  
たり自宅にいたりしてできるだけ自分達のけがや  
いろいろけがなどをせずにしてできるのは自分達の  
できることは、していかねばです。





震災講演会を聞いて、改めて  
怖いし、恐ろしいなと思いました。  
今日は1月17日で「阪神・淡路大  
震災が起きた日」、その起きた日  
から27年たつて、今日の講演会は  
ほとんどが地震とかの話して、その話し  
の中に30年か何年か忘れたけど、その間  
に大きな地震が来ると話されて、  
大きな地震が「たんだ」と近づいて  
来ていると考えたら、すごい怖いし、  
恐ろしいなと思いました。いつ  
来るかわからないからこゝろ日々準備し  
て、どうやって自分や家族、友達など  
の命を守るかとかそういうことを  
学べました。阪神・淡路大震災とか  
震災は決してこれからの人生の中で  
忘れてはいけないことだ  
と思いました。

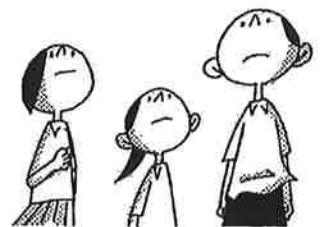






地震に関しては身近だからよく耳に招き授業とかでも防災訓練はしているけどやはり安心できるとは思うことができないです。

いつ起きるかもわからない、何がどうなっているのかもわからない、人々を不安にし、人生に一生のキズを残す。たとえ地震に備えていたとしても、それを実行しなければ意味がない。食料も水もがれきりもあれば使えないし、集合場所を決めたとしても不安やあせりから判断ミスして危険な方に行ってしまったら死んでしまう可能性だってある。非常事態には、冷静さが大事とよく聞くが、心のゆらも大事だと思う。同じように考えるかもしれないが、冷静さは判断を失敗しなかったり、おちついた行動ができるとかだけど、心のゆらは身心共にリラックスできるようになる。そうすると、後々気持ちも楽になってくる。判断ができても心が押しつぶされていけば、自分のことを守ることができないから、両方大事だと思います。僕は震災について学んでいるからその知識で地震に負けないようにがんばりたいです。





震災講演会を聞いて、阪神・淡路大震災の

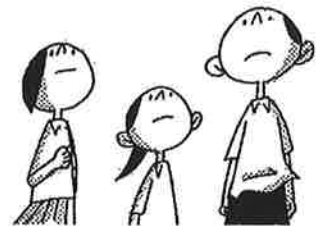
こまかいことまですごくよかったです。震災がおきた時間

午前5時47分20秒で、こまかい時間をどうしてわかる

のか震災は自然たなと思いました。震災のそなえや頭をまじるもの

などをよういすることがだいじだなと思いました。お話をきいてよかったです。

です。



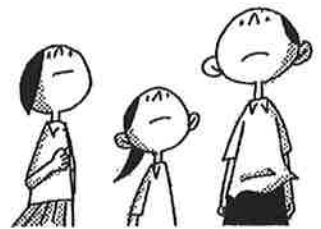


今回の震災講演会を聞いて新聞記者の方たちは震災があっても新聞を作ろうとして、さすがだなあと思いました。

高速道路が横倒ししている写真や阪神電鉄が崩壊している写真を見て復旧にとれぐらいかかたのか、疑問に思いました。あんなに大きな建物が倒れたりしたのに現在は何のあとも残らずに復旧していて日本の技術はすごいと思いました。

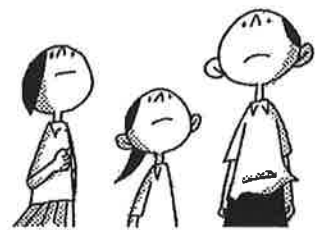
今は、南海トラフ地震が起こると聞き、この地震は阪神・淡路大震災よりも強い地震が起こると言われています。兵庫県は振度も強い地震が来ると言われているので、僕が体験した事ない地震が来るのはとても怖いので、そのための備えを今のうちに考えておかないといけません。地震はいつ起こるか分からないのでその時にれいせいに行動出来るようにしておきたいです。

地震で助かる事が出来ても避難所で病気にならなくなったり、帰る所が無い人扶くたいたと聞き、地震の後でも色々な困難があたりやすくなる事におどろきました。改めて地震が起きやすい日本は自分の備えを考えないといけないなと思いました。



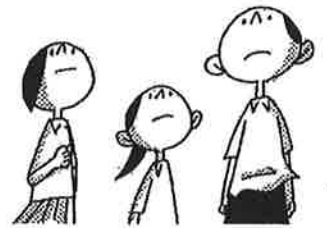


私は今日の講演会をきき、実に体験したわけじゃないし、どれくらい大変だったかとかも、話を聞いた範囲でしか分かっていないけど、今日は特に「神戸新聞の7日間」を見て、地震の強さとか、怖さとか、新聞があることの大切さとかが分かったと思います。私は地震を体験したことがあるけど机が揺るが少し揺れているのを感じるくらいでしかありません。でも、ドラマの映像を見て、相模とか窓のガラスとかも割ってバラバラだし、たおれたりしている情まうで、私の母もねている時に相模がたおれてきたと話していました。想像でしか理解できていなかったのでも、映像を見て改めて「おそろしいな」「怖いな。」と感じました。私も実際にあったら、友達や家族のことを考えるまでもなく自分のことでせいっぱいになら、いると思います。でも、神戸新聞を作るために郵いでくれている人がいる。みんなのためにがんばってくれている人がいる。そう考えると、とてもバ強いなと思います。地震に実際にあった人も全休そう思ったと思います。今日話ってきたこと、見せてくれた映像、写真などを胸に刻んで忘れないようにしたいと思います。そして、「備え」にゴールはないということをしっかり覚えておきたいです。





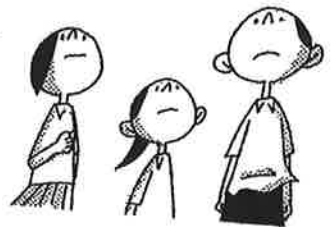
震災講演会を聞いて、地震はいつ来るか分からないから、とても怖いと思いましたが、いつ来るか分からないから、準備の必要なんだと分かったし、何もせずにいいし、地震が来たら手遅れになってしまうから、早く早めの準備をしていきたいと思いました。阪神淡路大震災を知らないけど、この講演で地震などは計りきれないかわさがあることに気付きました。このような震災は大事な人を亡くすることもあると思うので、震災をなくしたいと思うけど、世の中、不可能なこともあるんです。震災は絶対に防げません。だから、もっと震災に対しての知識をつけて、自分の命は、自分で守れるようになりたいです。地震は、今日くるか？、明日くるか？いつ来るか分からないから、とても不安だけを、だからこそ、地震について、もっと真剣になるべきではないか？とこの講演を通して感じました。







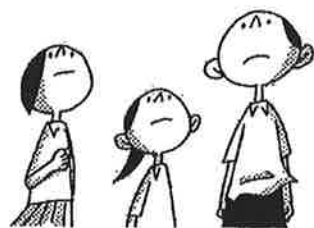
今日の震災講演会では、実際に  
阪神・淡路大震災を体験した三好さん  
にたくさんのお話を教わりました。私たちがまた生  
きている世界でまた同じような地震が起ると言  
われていますが、私は、実際に体験した事がないので、  
その分、また阪神・淡路大震災に似た大地震が  
起こったら時に冷静に物事を判断できるか、  
心配です。三好さんが言った、大事な事が私の周りで  
起こりしうと考えるだけで、胸が締めつけられる  
です。三好さんが話してくれた内容は、どれも  
興味深かったです。津波が34mも来る時が  
あると聞いた時はとてもビックリしました。普通、50cmの津  
波でも人は、立ち止まれないと聞きました。それが何十倍  
もの津波だったら、どれほどおそろしいか。しかし、一番心  
配したのは、その阪神・淡路大震災で、自分の周りに  
いる人が亡くなる事です。その阪神・淡路大震災で、  
先生方の知人が亡くなったと聞いた時は、  
阪神・淡路大震災の重さがグッと重  
なったように感じました。







震災について、聞いていて、僕は、改めて、地震による被害というものは、恐<sup>おそ</sup>しいなと感じました。今後、起こる可能性がある南海トラフ巨大地震に備えて、もう一度家の備えを見直そうと思いました。災害が起きた時は、あせってしまうことがよくありますが、そんな時こそ冷静に対処することが大事であることを知りました。見たドラマ、「神戸新聞の7日間」では本当に大の大人でも状況の判断が難しく、それほど大パニックになっていたんだなと思いました。地震が起きたら、まずは、出口を確保したり、火の元を確認したり、ブレーカーを切ったりと、自分にできることを率先して行動することができたら良いなと思いました。また、自分の家族だけを助けるのではなく、他の家の援助もすることができるようになりたいです。

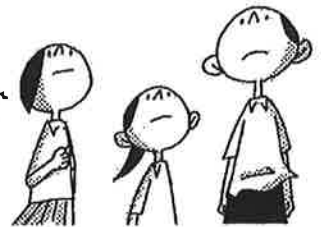




僕は14年間生きてきて  
台風以外の災害の被害を  
受けたことがありません。台風の被害といっても  
外で乾かしていた洗濯物がぬれたりする  
程度 災害によって避難を余儀なくする  
場面をニュースで見るが体験したことはない。  
でも大きな地震によって亡くなる命が  
多いのも知っている。南海トラフ地震が  
いつ起こってもおかしくないというのも知っている。  
日本は地震が多いのも知っている。全て  
知っているだけであって体験したことがない。  
でも知ることによってできる対策があると思う。  
避難所の確認や家具の固定など過去の  
地震から得ることのできる教訓を  
どのように活かしていくのか。これが  
これから生きていくうえでの課題である  
ということを痛感しました。

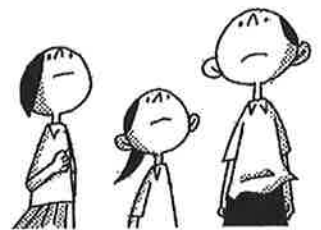
愈々南海トラフがくる。

生きてかえられるかは断言できないが  
今できることをしたい。





震災講演会を聞いて、私は、自分が知らな  
いたけれど、いろんなところで災害が起きていると  
知りました。私は、大きな地震を経験して  
いないので、あまり災害について考えたことがありま  
せん。でも、今日の話を知っていると、いつか災害  
が起きたときのために対策をしておかないといけな  
いと感じました。地震で、頑丈だと思っていた建物  
も壊れ、あたりまえに使っていたものも使えなくなり、  
家族や友達を失ってしまうかもしれない、とても怖いものだ  
と思いました。新聞を一つ発行するだけでも難しく、たく  
さんの人に協力してもらえないといけないし、混乱している  
中でも、記事を書いて、正確な情報を書かないといけな  
いのは、とても大変なことだなと思いました。自分だったらでき  
ないだろうなと思いました。地震から逃げきっても、火事  
や津波にまきこまれてしまうかもしれないので、そこでも  
逃げきれぬような対策が必要だと感じました。一回一回  
の防災訓練や、災害について知れる機会を大切にし  
て、正確な判断ができるようにしようと思  
いました。とても貴重なお話が聞けて良  
かったです。





僕が一番印象に残ったのは、フジテレビの「神戸新聞の7日間」です。特に仕事や、前の仕事の同僚と話をして、日常が「Lyonがほろかい弱の嵐」とも思えるしかたでも

特に地震が起きた時の場面が 頭から離れなごう。窓が割れて割れ、家具が倒れて、下じきになってほたりして「こんななる物なんだ」と思いました。

電気が落ちてきて火花が飛んでいるのも驚きました。

次に神戸にテレビで、いつもかうで「きれいなあの思

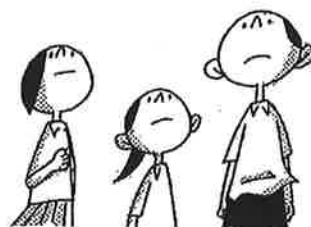
って見て、たのび」なども地震に関連するイベントという

ことも知られたので「おが、家族や知人を失ってほた人には

このおに」色のおれいな光は安心したた「うなと考ま

した。

この講演会を聞いて地震に気をつけたらと思ひました。





三好さんの震災講演会を聞いて、  
学んだことがたくさんありました。

一つ目は、何分かの地震のせいで何百年とかけた  
積み重ねてきたものが一気に壊れる。

私は、産まれていないので分かりませんが、考える  
だけで苦しく、悲しくなります。

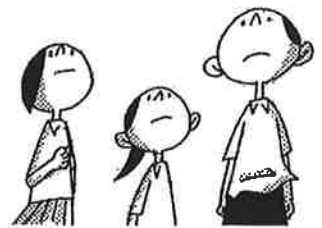
それに、物だけではなく大切な人ももなくて  
しまいます。もし私が経験していたら、立ち直ったり  
することができな い と思います。もしかしたら、死にたく  
なっているのかもかもしれません。

その考えると、本当に恐ろしいな と思いました。

二つ目は、

三好先生からいただいたプリントに「備えにゴール  
はない」という言葉がありました。本当にその通りだと  
思いました。私の家では必要最低限の事しか  
していません。それもすくゆるい です。

いつどこでくるか分からない自然災害に  
家族で備えて、減災していきたい いた  
と思いました。





私が今日、一番印象に残っているのは、

阪神・淡路大震災の名前にこめられているおもいでです。阪神大震災と呼ばれたり

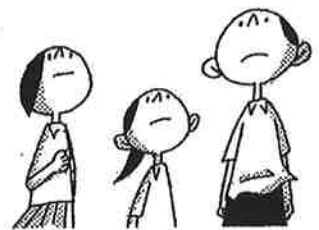
するけれど、淡路下も62人の死者が出ており、阪神だけでなく、淡路下もたくさんの方が亡くなったことを忘れないように、名前に入っていると分かりました。

沢山の資料を見て、阪神・淡路大震災は、本当にすごい災害だ、と人だなと思いました。高速道路が倒れたことは、何度も聞いたことはあ、けれど、

他にも大きな建物が倒れたんだと、改めて感じ

ました。災害後の仮設住宅なども、沢山下変などおまをされた方が沢山いて、その人の気持ちなどをくわしく知れて良かったです。

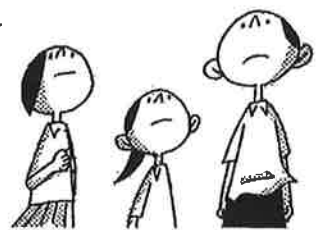
私は、まだ大きな地震を経験していません。でも地震が来た時に役立つ知識を付けて、身を守る行動がとれるようにしたいです。





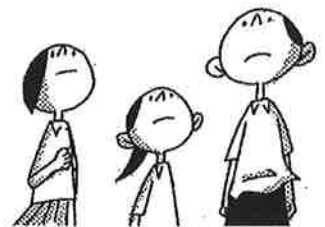


自然災害はいつおこるか分らない。そして、多くのひがいがでる。今日聞かせてもらった話だけでも、日本のほとんどがひがいにあっていた。そして、明石市もひがいにあって、1度の地震で11人も死んでしまうという大きなひがいをうけていて、もし自分の友達や家族がそのひがい者だったら、僕はどうなってしまうのだろうか。僕はこの授業で聞かせてもらった時考えました。僕はそれほど大きな地震も実際に体験をしたことがありません。だからこそ、今自分のできることをこれからのためにしていこうと思います。そして、今日の話を聞いて一番おどろいたのは、地震が大きかったら、けがはあたりまえに近々人だということでした。僕はこれらも聞かせてもらって考えました。そして、今日学んだことはむだにせず、これからいかせていただきます。





私は震災講演会を聞いて、  
自然災害はこわいなと思った。平成  
は自然災害が多く、令和になってもまだ  
まだたくさんおこると思われる。だから日々  
備えをし、いつ自然災害がおきてもよいように  
することを大切だと思った。高速道路各では  
日本のは安全というのがあったけれど横倒しに  
なっているのでも安全という言葉は信じすぎでは  
いけないと思った。阪神大震災とよくいわれてい  
るが、淡路でもたくさんの方が亡くなっていて  
忘れてはいけないことなので、阪神大震災とい  
うのはやめたほうが良いと思った。繰り返しおこ  
るのでこれからもたくさん自然災害がおこる。何も考えずに  
毎日過ごしていると良くないことがたくさんおこること  
になる。だから、心配を少なくする取り組みをしていかなければ  
ならない。「備え」にゴールはないので毎日備えていく  
必要があると思う。一人一人ができることをし、自分  
の命を自分でまもることが大切  
であると思う。今日の震災講演会  
では地震のことについて考える  
きっかけになったので良かったと思う。





阪神・淡路大震災が起きた時の神戸新聞社の様子を実際に体験した三好さんが話してくれました。とても生々しくて体験していないのに想像できそうでした。さらに震災についての映画を少し観て、より深いイメージが出来ました。「この出来事を忘れてはいけない」とよく言うけど、体験していない私たちみたいな人はともかく、当時普通に生活していた人たちは、忘れてたくても、忘れることはできないんじゃないかと思います。特に家族や身近な人が亡くなってしまった人は、その悲しみが消えてなくなることはないんだと、改めて感じました。自然災害をなくすことや、それによる被害をなくすこともできないけど、頭の中に「起こるかもしれない」を置いておくだけで、全然ちがう結果になると思います。私や私の家はまだあまり対策を行っていないので、いつか来ると言われている南海トラフ地震やその他のいつ来るか分からない出来事に備えていこうと思いました。災害を来ないもの、遠いものだと考えず、やってくるもの、すぐそばにありものだと思っておくことで、危機意識を高められるようにしていきます。

